

2022年12月1日

Hondaの米国現地法人であるアメリカン・ホンダモーター（本社：カリフォルニア州トーランス 社長：貝原 典也）は、現地時間2022年11月30日に以下を発表しましたので、その内容をご案内いたします。

<ご参考>

新型燃料電池車を2024年から米国PMCで生産

Hondaは、「CR-V」をベースとした新型燃料電池車（FCEV）の生産を2024年から米国オハイオ州メアリスビルの四輪車生産拠点パフォーマンス・マニュファクチュアリング・センター（PMC）にて開始します。

PMCは、少量生産に最適な生産設備を備えており、熟練した技術者が持つ職人の技と革新的な先進生産技術の融合により、最高レベルでの品質とクラフトマンシップを実現する工場であり、2代目NSXが生産されてきました。こうしたPMCの特長は、特殊な組み立て工程を必要とするFCEVの生産にも適しており、新型FCEVの2024年からの生産を担うこととなります。

新型FCEVは、今年夏に米国で発表された新型「CR-V」をベースに開発され、FCEVならではの短時間で水素を充填でき長距離走行できる特長に、家庭や街中で充電できるプラグイン機能を追加したモデルです。

Hondaは、走行時に水しか排出しないFCEVを究極の環境車と位置づけ、1980年代後半から研究開発を行ってきました。2002年には「FCX」が、FCEVとして世界で初めて米国環境保護庁およびカリフォルニア州大気資源局認定を取得し、日本と米国でリース販売を開始しました。2008年には「FCX クラリティ」、2016年には「Clarity Fuel Cell（クラリティ フューエルセル）」のリース販売をそれぞれ開始するなど、FCEVの開発に取り組んできました。

Hondaは、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、2040年に四輪車におけるEV、FCEVの販売比率100%を目指しており、このたびの新型FCEVも、この目標実現に向けた取り組みの一環となります。

なお、新型FCEVの詳細については、米国での2024年の生産に向けて、今後、順次発表していく予定です。